

私服ウィーク、始まっています

「私服ウィーク」が始まっています。ご家庭の協力、ありがとうございます。昨日は、私服登校者は少数でしたが、本日は全員私服登校です。いつものように、朝から正門で生徒たちを迎えましたが、普段と変わらず、スムーズなスタートでした。授業の様子も、全クラス見て回りましたが、集中して課題に取り組む生徒、グループで意見交換する生徒、積極的に発表する生徒、私服でも制服でも学習の様子は変わりません。

今回の私服ウィークは、「制服検討委員会」の議論の一環として実施したものです。これからの制服の在り方を見直す中で、私服で登校し学校生活を送る経験を通して、私服のよさや課題、制服の意義や今後の在り方について、「自分ごと」として考えることを目的としています。

ただ、もう一点、生徒たちに感じてほしいことがあります。私服について生徒たちと話すと、私服は嫌だという意見が多数派でした。私服反対の理由として、「人と違ったら不安だから制服がいい」という意見が多いようです。本日の私服着用では、ドキドキしながら登校した生徒もいるのだらうと思います。なるほど、共感できる部分もあります。しかし、今回の取組が、「人と違ったら不安」という考え方を見直す機会になればと思っています。

集団生活を送る学校では、協働力や協調性はとても大切です。これからの社会でも、これは変わりません。

しかし、何から何まで同じであることが協働・協調ではないはず。 「人と違うと不安、人と同じだから安心」という考え方は、社会の中で調和を保つためにはプラスに働きます。一方でこの考え方が過ぎると、主体性、創造性が育たない可能性があります。他者にあわせることで安心を得ようとする態度は、自律的判断力や自己決定力を弱めることにつながります。また、創造性の核は「違い」にあり、違いを恐れる態度は、創造的な可能性を封じ込めてしまいます。先日の熊大訪問の際に、小川学長は、これからの時代を担う附中生に、「これから大切なのは違いを認め、異なる者同士が協働することで新たな価値を生み出していくこと。」と、オープンノベーションの重要性を熱く語られました。

堅苦しい話になってしまい、すみません。しかし、多様性・国際化の時代、「人と違うから不安」という感覚を少しでも取り払うことは、これからの時代を担う生徒たちにとって必要なことだと思っています。

制服のよさ、私服のよさ、それぞれあります。この1週間で、生徒一人ひとりが多くのことを感じとり、学びとってほしいと願っています。

ウクライナ難民の子どもたちが描いた世界

玄関ホールに展示しています 機会があれば、是非ご覧ください



各クラスでの授業風景 私服でも違和感なし

